

■インド：クリーンコール国家計画、近く発表へ

インド政府はクリーンコールテクノロジー国家計画（National Mission for Clean Coal (Carbon) Technologies）を近く発表すると、チェンナイで開かれたアジア原子力会議 2010 の席上、Chidambaram 主席科学技術顧問が明かした。同計画には、次世代超々臨界圧石炭火力発電所（A-USC）や CCS などの技術開発を促進することなどが盛り込まれる見込み。A-USC については、インディラ・ガンジー原子力研究所（IGCAR）、国営のバーラト重電公社（BHEL）、火力発電公社（NTPC）が、単機容量 80 万 kW（蒸気条件：温度 700℃、圧力 350bar）の設備開発について既に覚書を締結している。IGCAR がボイラーを設計開発、BHEL が設備を製造し、NTPC が発電所を運転するという役割分担になっている。投資額は 1,000 億ルピー（約 1,800 億円）で、A-USC 発電所の建設は 2018 年着工を予定している。Chidambaram 主席科学技術顧問は、この開発プロジェクトの海外パートナーを探しているとも述べた。